

## 平成年24年度 第3回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

開催日時 平成25年3月21日（木）午前10時30分～

開催場所 本庁舎5階 503会議室

出席者 (1)委員：下津谷委員長・新山副委員長・小川委員・佐藤委員・石神委員

(2)市側：川西教育長・山崎生涯学習部長・阿久津文化スポーツ振興課長  
・犬塚課長補佐・三石副主幹・後野主査捕

欠席者 なし

1 開会

2 議 題

会議録署名人の選出について

会議録署名人を小川委員に指名（名簿順）

### 【協議事項】

(1) 市指定文化財の指定について（答申）

事務局から資料に基づき主旨の説明を行った。

### 【質疑等】

委員：市内では粟野だけである。船橋などこの周辺でも庚申信仰が行われているが、こういう規則性を持って行われ、しかも、かつての村の範囲で行われており、そういう中での思いが今だに伝わっているのは、非常に価値がある。そういう意味でも、市民の方にも、石が建っているだけではなく、どういう意味があるのか、その歴史的なあるいは魅力的な価値があることをPRする上でも指定はいいと思う。

委員：先生がおっしゃられたとおりで、非常に重要な、貴重な庚申塔の事例である。庚申塔は、松戸や船橋など、各地でたくさんあるが、これだけの数がきちっと残っているのは、非常にめずらしい。文化財に指定されることは、非常に喜ばしい。

委員長より教育長に答申書の授受を行った。

### 【報告事項】

(1) 平成24年度文化財保護主要事業の進捗状況について

事務局より資料に沿って報告

### 【質疑等】

委員：文化財の除染について、該当はあったのか。

事務局：ありません。

委員長：測量調査に野馬土手が入っているが、現在野馬土手はどのくらい残っているか。

事務局： 現在、1. 2キロ程度と推定をしている。  
そのうちの100m程度の長さを保つ残りのいいものを順に、平成18年度から測量調査を行っている。  
国庫補助事業の市内遺跡の中の一環として測量調査を行っている。平成25年度で一応の見切りをつけて終了する計画となっている。  
今年度調査を行った鎌ヶ谷一丁目所在野馬土手の場所は、大仏の共同墓地の裏の市の所有地になっている中に所在し、そこの測量を行った。

委員長： それ以外は私有地か。

事務局： そうである。

委員： 北初富あたりの土手はほとんどなくなっているのか。

事務局： 北初富の周辺だと、捕込そばのスーパーの裏手にクランク状に残っている土手を調査している。昨年度は初富字林裏地区、北初富から第三中学校へ進む道路沿い右手に連なっている2群の土手を調査し、平成23年度の概報で報告している。

委員： 北初富の方が開墾が早く、宿舎も作られているため、野馬土手は早くになくなっているんだろう。

事務局： その当時、開墾にかからなかった部分は、現在も私有地の地境として比較的良好に残っていることが、今年の調査で確認できた。

委員長： これから野馬土手の保存はどうか。かなりきびしくなりそうか。

事務局： なかなかきびしい状態と思われる。ただし、鎌ヶ谷総合病院駐車場南側の土手のように、当面の間、保存をはかっていたかというような、開発等にかかっていた土手部分を除外して計画を進められる場合については、保存協定を結んでいる。当面の間は土手を残す約束を取り付けているもので、この時点では将来的な保存を確約しているものではない。

(2) 国史跡下総小金中野牧跡主知普及事業について  
事務局より資料に沿って報告（質疑なし）

(3) その他

・千葉県緊急創出事業補助金について

事務局より資料に沿って報告

【質疑等】

委員： 中沢貝塚の遺物整理が順調に進んでいるようだが、後、未整理のものはどのくらいあるのか。

事務局： 主な製品の取り上げたものは、一応の区切りをつけた。残りは、貝サンプルとして取り上げてきた資料が残っているので、その整理が基礎的な作業の中心となる。来年度も緊急雇用創出事業が継続されるという見通しがあるので、その中で、来年度は600箱程度の貝サンプルの水洗・選別作業を緊急雇用で委託に出す計画をしている。

5 閉会

【会議終了】

以上会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

平成 25 年 3 月 21 日

署名人 小川 浩